

日本財団助成事業(事業 ID：2024000837)

2024 年度事業報告書

カリキュラムの実施と開催地域での新講師育成
カリキュラム運営事務局の新設に向けた事前準備

NPO 法人境を越えて

目次

I.	はじめに	3
II.	活動報告 カリキュラムの実施と開催地域での新講師育成	3
	会議録	3
III.	授業資料作成に伴う実態調査.....	25
IV.	活動報告 新規の運営事務局の新設に向けた取り組み.....	25
V.	モデルカリキュラム実施結果.....	29
VI.	活動報告 各種発表	46
VII.	まとめ	47

I. はじめに

重度障がい当事者（難病患者含む）が地域で暮らし続けるためには「生きる」を支える医療者、「暮らす」を支える介助者双方の人材育成が要だ。当団体では 2021 年度より「重度障がい者へのケアの体系化と専門教育課程への導入」にて、学生を対象に、専門性を持つ介助者育成に必要な要素の明確化、地域で生きる当事者宅での介助体験を含むモデルカリキュラムを作成し全国 5 か所で単位化した。

本報告書はこれまでの事業成果を活かして、継続・新規の地域におけるカリキュラムの実施と新講師育成、また、カリキュラム運営事務局の新設に向けた事前準備を行った成果をまとめたものである。

II. 活動報告|カリキュラムの実施と開催地域での新講師育成

会議録

第 1 回会議

日付 : 2024 年 4 月 1 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香

内容要旨 : 2024 年度開催に向けた打ち合わせ

詳細内容 :

- ・ 2024 年度は 6 大学での実施が確定した
- ・ 担当講師の割り振りを行った
- ・ 同意書類の電子化(Google form の活用)について検討
- ・ 各大学の時間割案を作成

第 2 回会議

日付 : 2024 年 4 月 3 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、櫻井こずえ、千葉早耶香、長田直也、伊藤菜緒

内容要旨 :

2024 年度開催に向けた打ち合わせ、担当講師確認

詳細内容 :

- ・ 第 1 回会議で検討した内容を共有した
- ・ 事例検討の講義について担当の当事者が割り振られていなかったため追加

- ・ 8月10日の帝京平成大学の講義について、担当候補者が体調不良のため長田が担当することとした

第3回会議

日付 : 2024年4月4日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、江頭説子、三枝七都子

内容要旨 :

2024年度杏林大学でのプロジェクト実施に関する打ち合わせ

詳細内容 :

決定事項 :

- ・ 7月3日オリエンテーション内容
 - ・ 授業内容説明
 - ・ 誓約書
 - ・ フォームの入力案内(最寄り駅、実習希望日、事前課題*)
 - * 事前課題(仮) 以下の問について記述する。
 - 「神経難病当事者の生活について現時点でのイメージ」
 - 「障害とは何か？」
 - ・ フェイスシート作成の説明 提出期限 7/30
 - ・ 動画 URL 共有
 - ・ 障害の社会モデルに関する歴史や条約の解説
 - ・ 講義
 - ・ 医療の視点が地域・福祉・生活へとつながることをテーマとする
 - ・ 「医療の視点」授業は小田さん仲宗根さんの語りを中心にして、事例検討をお二人と学生の交流の時間にする
 - ・ 実習
 - ・ 同意書の電子化 口頭説明と同意入力は 8/30 実施
 - ・ ミッションはなし。個人の生活を体感してもらい、それぞれに違うことを共有する。
 - ・ 感染対策の希望は当事者へ再度確認
 - ・ マナーチェック(訪問時間、服装、態度)は明確にしっかり伝える
- 今後の検討事項 :
- ・ 予算見積もり
 - ・ 神経内科石川先生の講義
 - ・ フェイスシートの他講義での活用について当事者確認
 - ・ 「医療の視点」講義内容 5/27 相談
 - ・ 時間割組み直し

- ・事後学習の進め方

第4回会議

日付 : 2024 年 4 月 15 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、鹿野咲、寺田基、秀真緒

内容要旨 : 2024 年度日本医療大学での開催に当たる打ち合わせ

詳細内容 :

- ・ 日程の確認
- ・ 3 日間開催のイメージの共有
- ・ 時間割案の提示と役割分担 昨年度の録画を案内
- ・ コミュニケーション講義 今後進め方を Icare ほっかいどう佐藤さんと相談
- ・ 3 日目「学生時代の介助体験を振り返る」新たな講義資料の作成依頼
- ・ 3 日目講義・GW の進め方について共有、教則本の紹介
- ・ 3 日目のメンバーも確認
- ・ 6 月 24 日(月)18 時に練習会を実施し、それぞれの講義内容確認

第5回会議

日付 : 2024 年 4 月 15 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、西留美子、山口亜未

内容要旨 : 帝京平成大学での開催に向けた教員との打ち合わせ

詳細内容 :

- ・ 対象の 1 年生に合わせた学習内容として当事者を知ること重点を置く
- ・ 参加人数は 130 人前後
- ・ 感染対策の確認(マスク装着、2 週間前からの体温・症状観察)
- ・ 実習中の学生の態度の問題についてはその場で当事者や介助者に注意をしてもらい、教員と共有する
- ・ 6 月 6 日の事前説明会で事前学習用の動画を共有し、体験参加の学生を選抜、6 月 17 日に名簿を作成
- ・ 学生のフェイスシート作成期限について
- ・ 体験中の保険の加入の有無について確認

第6回会議

日付 : 2024 年 4 月 17 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、江頭説子、三枝七都子、市川弥生子

内容要旨：杏林大学医学部での開催に当たり、脳神経内科研究室の教授と今後の連携について相談

詳細内容：

- ・ 当法人からは見学体験受入の当事者に関する情報提供および昨年の学生の実習の写真を提供する
- ・ 脳神経内科学の授業では疾患に関する振り返りを行う

第7回会議

日付：2024年4月18日

方法：zoom

参加者：本間里美、千葉早耶香、西山徹、松崎由里子

内容要旨：日本医療大学での開催にあたり教員との打ち合わせ

詳細内容：

- ・ 日程と時間 2024年9月4－6日
- ・ 9月4日講義9：00－17：00, 5日体験, 6日講義10:00-15:00
- ・ 6月までにポスター作成：昨年度の写真と感想を記載
- ・ 学生の体験実習中の保険について確認していただく
- ・ 6月に学生募集開始、7月6日に名簿を作成、その後マッチング
- ・ 8月5日までにフェイスシート提出
- ・ 順次来年度以降の科目との協働について検討

第8回会議

日付：2024年4月24日

方法：zoom

参加者：本間里美、長田直也、和田英人

内容要旨：弘前大学「地域で暮らす」講義についての打ち合わせ

詳細内容：

- ・ 暮らす上で関わる人や制度、お金についての講義
- ・ 和田さん自身のエピソードを含めて地域生活の困難さを伝えてもらう
- ・ 和田さんに資料を送る：長田
- ・ 3日開催の方向で決定
- ・ 一人暮らし異性への介助の考え方を現場と共通のものとして実施していきたい。学生も同性介助見学・体験で統一
- ・ 授業見学：当事者職員等数名予定

第9回会議

日付：2024年4月24日

方法 ：zoom

参加者 ：本間里美、櫻井こずえ、千葉早耶香、江口健司、彦田友香、清水仁美

内容要旨：帝京平成大学「介助の視点」講義についての打ち合わせ

詳細内容：

- ・ 講義時間を 40 分に短縮
- ・ 「一緒に行く」「心が通じる」の 2 つをメインテーマとする
- ・ 看護は介助も包括しているという点についても含める
- ・ 事例検討の進め方を共有

第 10 回会議

日付 ：2024 年 4 月 25 日

方法 ：zoom

参加者 ：本間里美、長田直也、紺野順子

内容要旨：日本医療大学「地域で暮らす」「障害って何」講義についての打ち合わせ

詳細内容：

- ・ 長田より紺野へ講義資料共有
- ・ テキストとは別に要点の資料用意したい（紺野）
- ・ 「事例検討」は長田の情報をほぼ同一に活用可能
- ・ 7 月中に「暮らす」「障害とは」練習会
- ・ 時間割は予定案で OK
- ・ 3 日目はオンライン
- ・ 高波さんへの連絡：本間
- ・ 当日見学当事者よしなりあみさんへの連絡：紺野

第 11 回会議

日付 ：2024 年 5 月 1 日

方法 ：zoom

参加者 ：本間里美、千葉早耶香、檀原志穂

内容要旨：帝京平成大学「医療の視点」講義についての打ち合わせ

詳細内容：

- ・ 講義を 40 分に短縮「医療者のスタンス」「不動の痛み等の神経筋疾患など当事者に特化した内容」「バイオサイコソーシャルモデル」に焦点をあてる
- ・ 事例検討で一緒に講師
- ・ 7 月上旬に講義内容や事例検討について直前打ち合わせ実施
- ・ 他の講義資料等共有

第 12 回会議

日付 : 2024 年 5 月 10 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、小林武、安達いづみ、傍島智子

内容要旨 : 今年度東北文化開催に向けた打ち合わせ

詳細内容 :

- ・ 日程と時間
- ・ 学校側が求めるもの、方向性
- ・ 予算調整 基本的には 100 分 1 コマで 1 講師分の料金支払いになるが、今後以降の予算も考慮して概算
- ・ 参加人数は 1-4 年生で上限 20 名
- ・ 体験時に山形に行く学生がでてくる
- ・ 感染対策の状況を確認/マナーチェックの確認
- ・ 実習中に気になったことは当事者の方からもその場で注意をしてもらう方が学生にも伝わる。先生方にもその日のうちに報告。
- ・ 正規のカリキュラムでは大学の保険でカバーされる
- ・ コミュニケーションを 1 時間目に変更する

第 13 回会議

日付 : 2024 年 5 月 10 日

方法 : zoom

参加者 : 長田直也、吉沢祐輔、千葉早耶香

内容要旨 : 帝京平成大学「障害って何？」講義打ち合わせ

詳細内容 :

- ・ 冒頭の問いかけを最後に回収する流れで全体を再構成
- ・ 電動車椅子サッカーの動画は自己紹介、取っ掛かりに使用
- ・ 身体障害に伴う日常生活における制限に焦点をあてて社会モデルを説明
- ・ 合理的配慮のエピソードや写真を追加
- ・ 6 月に授業内容確認の打ち合わせを実施

第 14 回会議

日付 : 2024 年 5 月 10 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、江口健司、穂高優子

内容要旨 : 日本医療大コミュニケーションの講義の打ち合わせ

内容要旨：弘前大学介助の視点の打ち合わせ

詳細内容：

- ・「介助の視点」講義の概要説明
- ・エピソードは自分のものに変更して、40分にまとめる
- ・事例検討講義の進め方説明
- ・8月8日以降に練習会実施

第15回会議

日付：2024年5月13日

方法：zoom

参加者：本間里美、千葉早耶香、寺田基

内容要旨：日本医療大コミュニケーションの講義の打ち合わせ

詳細内容：

- ・寺田担当講義(1日目)はPT視点、初回授業をメインにする
- ・8月の講義を共有

第16回会議

日付：2024年5月15日

方法：zoom

参加者：本間里美、千葉早耶香

内容要旨：杏林大学、帝京平成大学のコミュニケーション講義について打合せ

詳細内容：

- ・授業の時間割が1限になるため講義内容見直し
- ・改善した授業資料の雛形作成5月中(吉澤)
- ・練習会7月中旬(橋本)、7月下旬(岡本・野原)

第17回会議

日付：2024年5月16日

方法：zoom

参加者：本間里美、千葉早耶香、山田洋平、山田五月

内容要旨：日本医療大学「地域で生きる」講義打合せ

詳細内容：

- ・「生きる」の講義は五月さんがベースを作成、当日洋平さんは体調をみて参加を決める
- ・PA制度の説明時間を追加
- ・学生の見学体験に関して最低限のマナーを伝えてもらうように確認

第 18 回会議

日付 : 2024 年 5 月 18 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香

内容要旨: 杏林大学「医療の視点」講義についての打合せ

詳細内容:

- ・「地域で支える」は本間・小田で進める
- ・フェイスシート作成(6 月中に共有)
- ・「医療の視点」講義ではお二人の身体・心理・社会を中心にする
- ・「医師としてのあり方」(仲宗根先生)については 10 月 10 日の講義に追加
- ・時間割変更
- ・事務局: 予算案を江頭先生と確認

第 19 回会議

日付 : 2024 年 5 月 22 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千田香

内容要旨: 東北文化学園大学、帝京平成大学での講義の進め方について

詳細内容:

- ・両大学のスケジュールについて説明
- ・帝京平成大学の進行は本間、それを見て東北文化学園大学進行を千田とする
- ・「地域で支える」は、50 分内にアイテムの実際を入れて作成。参考は 2023 年の東北文化学園大学実施内容。(資料共有済み)
- ・杏林大学 3 日間にも参加して昨年度開催との比較検討
- ・7 月 4 日(木) 14:00~練習会決定(参加できるメンバーに声をかける)
- ・依頼状確認: 杏林大学を追加して、完成とする。

第 20 回会議

日付 : 2024 年 5 月 27 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、江口健司、秀真緒、紺野順子

内容要旨: 介助の視点から事例検討までの流れ確認、医療の視点の内容の作り方について

詳細内容:

- ・医療の視点は、見学体験につなげるような話方で疾患と解剖の繋がりを伝える程度で
- ・事例検討の進行は江口、紺野さんは当事者視点、秀が医療者視点での見方を学生の回答を聞いた上でアドバイス

- ・ 山田洋平さんの「地域で生きる」の講義の後半は、実際に山田さんが活用する呼吸アイテムの紹介などをリアルでいれる予定であり、その内容を活かしながら「医療の視点」「事例検討」につながるように作っていく

第 21 回会議

日付 : 2024 年 5 月 30 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、和田英人、三上、古川、菅原

内容要旨: 弘前大学見学体験受け入れ説明

詳細内容:

- ・ 和田・菅原: 参考フェイスシートとフェイスシート原本を共有し各自作成
- ・ 古川: 事務局と会話形式にてフェイスシート作成
- ・ 井上朝子 (本日欠席): ZOOM 録画確認後、作成方法決定
- ・ 当日の補欠要因として、長田 (体験室借用 OK)
- ・ ZOOM 録画本間⇒三上⇒井上
- ・ 和田、菅原へフェイスシート添付
- ・ 古川さんとの日程調整
- ・ フェイスシート提出: 8 月末

第 22 回会議

日付 : 2024 年 5 月 31 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、佐藤順子、江口健司

内容要旨: 東北文化学園大学「事例検討」講義の打ち合わせ

詳細内容:

- ・ 全体の流れの確認と事例検討についての打ち合わせ
- ・ コミュニケーションの時間が仮の予定より変更後共有
- ・ 事例検討
- ・ 会場の雰囲気がオンラインでも伝わるようにセッティング
- ・ 受け入れる当事者の方について新規で坂本さんへ連絡

第 23 回会議

日付 : 2024 年 6 月 4 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、紺野順子、高波

内容要旨: 日本医療「地域で暮らす」「障害って何」講義の打ち合わせ

詳細内容:

- ・ 紺野さんの授業資料は高波さんと共に作成（6月30日お二人で初回打ち合わせ予定）
- ・ 7月末資料完成予定
- ・ 8月中旬に授業構成内容確認プレ講座実施（オンライン）－他大学で「暮らす」担当の予定者も可能な方に参加呼びかけ、録画共有
- ・ 高波さん、紺野さんへ「暮らす」「障がとは」動画含め共有
- ・ 9月4日は現地に高波さん参加OK
- ・ 科学大等高波さん連携している大学等への紹介については、まず今年度一緒に実施

第24回会議

日付 : 2024年6月24日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、鹿野咲、寺田基、秀真緒、江口健司

内容要旨: 2024年度日本医療大学での開催に当たる打ち合わせ

詳細内容:

- ・ 「コミュニケーション」「地域で支える」「医療の視点」「学生介助者体験談」講義について打ち合わせを行った
- ・ 全体として資料の内容は継続して使用しても口頭で説明する内容は短縮する
- ・ 短縮に従って学生が理解する時間まで短縮しないようにする
- ・ 実習で行く当事者をベースに内容を検討する

第25回会議

日付 : 2024年6月26日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、岡部宏生、長田直也、飯島伸博

内容要旨: 2024年度帝京平成大学「地域で生きる」講義の打ち合わせ

詳細内容:

1. 自己紹介

－現状案で十分、とても良い

2. ALSについて

－パターン①はわかりやすいが、パターン②の方がリアルが感じられる。

－パターン②を中心にブラッシュアップ

3. 施設から在宅へ～どちらも経験した私が言えること～

－これから書く内容。

4. ある1日の生活

－動画（10分）の活用でも十分伝わるが、1日や1週間でどのような職種がどの程度関わるなどがまとめられているものがあると良い

5. 介助者の本音

- －（飯島）介助者が求める看護師さん像について介助者に話してもらいたい
- －飯島さんの発表の流れの中でいれられれば特に問題無し

6. まとめ

>要点

・自己紹介、ALS についての部分だけで、この授業で一番大切にしてほしい地域で生き

たいと思うこと暮らせることは別の問題ということが十分感じられる。

・先日記事になった動画を活用するなどして飯島さんだから伝えらえることを中心にそえてまとめていってほしい

第 26 回会議

日付 : 2024 年 7 月 2 日

方法 : zoom

参加者 : 吉澤卓馬、岡本莉奈、野原鈴香、千葉早耶香

内容要旨 : 2024 年杏林大学「コミュニケーション」講義の打ち合わせ

詳細内容 :

- ・講義部分は 25 分程度に収まるように適宜内容を修正(意思伝達装置の説明など簡略化)
- ・説明内容に合わせて適宜 PPT を修正
- ・透明文字盤体験部分は写真の説明から、身体のココがゆい、を伝えてもらうように変更
- ・体験後に、2 人の体験談の話をしてから最後のまとめの流れにする

第 27 回会議

日付 : 2024 年 7 月 4 日

方法 : zoom

参加者 : 寺田基、佐藤美由紀、千葉早耶香

内容要旨 : 2024 年杏林大学「コミュニケーション」講義の打ち合わせ

詳細内容 :

- ・木津さん体調崩している 動画資料編集しているので間に合うとは思いますが、
- ・本人は外出したいと言っているので体制が整えば。
- ・機器展示をお昼休みに実施と説明ができれば。

第 28 回会議

日付 : 2024 年 7 月 8 日

方法 : zoom

参加者 : 千田香、本間里美

内容要旨：2024 年度帝京平成大学、東北文化学園大学「地域で支える」講義の打ち合わせ
詳細内容：

- ・時間配分は 50 分以内で十分収まった
- ・要点はすべて入っていて、かつスライドが見やすいので、話し言葉で話してもらえれば良い
 - ・「あなたはどんな医療職になりたいですか」は動画作成中
 - －自身の経験のリアルを話してもらうだけでも十分
 - ・支える人たちの紹介方法
 - －医師であれば、緊急対応ができる、看護師であれば役割には介護もふくまれるなど要点を絞って話してもらう感じでよい。訪問医の対象＝外出ができない人と教科書には書いてあるが、実際は岡部さんも、飯島さんも外出しまくりの状況で実際は異なることなどもよい。
 - －ケアマネと相談支援専門員は背景要素を踏まえた相違の違いでOK
 - －P/O/S はお互いに得意なことがそれぞれ異なるような話し方がよかった
 - ・アイテム
 - －カニューレを最初に、アンビューだけは実践でもOK。カフアシストと呼吸器の説明
 - は同じ表現を使ってイメージできるようにが良いかも
 - －動画の説明を追加、実際の感覚とかでも良いので
 - ・病院も社会資源の一部
 - －定期検査の重要性を呼吸器設定の見直しをつなげてもよい。ALS だからといってがんにならないわけではないなど定期検査の重要性

第 29 回会議

日付：2024 年 7 月 10 日

方法：zoom

参加者：吉澤卓馬、橋本みも、本間里美、千葉早耶香

内容要旨：2024 年度帝京平成大学「コミュニケーション」講義の打ち合わせ

詳細内容：

- ・冒頭に目標 コミュニケーションは基盤として大事（卓馬）
- ・「学生介助者を経て看護師になった方から講義をしてもらいます」
- ・自己紹介
- ・コミュニケーション説明→事例→体験
- ・文字盤体験をしたことで発信側と読み取り側の難しさもわかった
- ・まとめ（真弓さんとのエピソードを絡めて）
- ・1 年生の難易度に合わせて適宜、言葉の使い方とかを工夫する

第 30 回会議

日付 : 2024 年 7 月 11 日

方法 : zoom

参加者 : 長田直也、吉沢祐輔、本間里美

内容要旨: 2024 年度帝京平成大学「障害って何？」講義の打ち合わせ

詳細内容:

① 冒頭は学生の見学体験への問いかけがあると良いかも、その上でなぜ今日のテーマがあるのか？を伝えて繋がりをもたせる

② 事例がとてもわかりやすかった

③ 避妊=障害をもっているからという理由で強制的に妊娠できないようにされたなどイメージしやすい表現がいかも

④ 写真を追加

⑤ 次のワークに繋がるように

- ・あなたが実現させたかったけど、できなかったこと

- ・あなたの障壁になったものは？

- ・あなたが実現させたかったことは？自分がどうすればよかった？

- だれがどうすればよかった？

一次のディスカッションにつながるように、におわせるだけにしてもよい。

—自分の話を入れてもよいかも

—事例は 2 パターンあった方がよいかも

⑥ 表紙を追加

⑦ 自己紹介は先にした方がよい

—スライドに文章を追加した方がよいかも

⑧ 障害の表記=障がい

⑨ 今日伝えたいことは？を絞る

—だれでも障害者になりうる

—障害はなくせる

例) 障害が無くせると言ったら驚きますか？

⑥ 条約については丁寧には話してほしい

- 条約ができたことで世の中は変わっていったんだということが伝わればよい

- 2006年に、2009年に日本は批准、遠い昔の話ではないよ。

⑦ 身体障害関係なくこういう差別をうけていますという文言を追加して、21番のスライド入った方がよいかも。

例「こんな体験をするのは身体障害だけしょうか？」のスライドを入れる。

第 31 回会議

日付 : 2024 年 7 月 29 日

方法 : zoom

参加者 : 仲宗根啓、本間里美、江藤説子、三枝七都子、千葉早耶香

内容要旨 : 2024 年度杏林大学「医療の視点」講義の打ち合わせ

詳細内容 :

- ・ 事前学習講義のメインは当事者としての視点、事後学習講義のメインは医師としての視点と区別する
- ・ 医療の視点の講義の構成は、進行を本間が担当し、学生の質問をピックアップして小田さんと仲宗根さんに回答していただく

第 32 回会議

日付 : 2024 年 8 月 3 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、壇原志穂、千葉早耶香

内容要旨 : 2024 年度帝京平成大学「医療の視点」講義の打ち合わせ

詳細内容 :

- ・ 机上の空論ではなく、実際に行ってきたことを伝えることが重要
- ・ スタンスを強調しながら説明することが大事
- ・ 神経筋疾患の基礎知識は教科書の振り返りの内容
- ・ 当事者の写真を使って説明する
- ・ ALS と筋ジストロフィーの違いを説明する際、人をベースにすると時間が短縮できる
- ・ 疾患の説明よりも体験で学ぶ方が良い
- ・ 神経と筋肉の解剖生理的な知識をおさらいしてから次の説明に進む
- ・ 実体験を踏まえた話の方が学生に伝わりやすい
- ・ 筋ジストロフィーと脊損の違いを説明する
- ・ 神経筋疾患の代表症状を紹介する
- ・ 呼吸不全について説明する
- ・ 医療職は受容しているかどうかを簡単に判断しがちだが、それは外部の人間が判断できるものではない
- ・ バイオサイコソーシャルモデルと全人的苦痛について触れる
- ・ 学生が想像しやすいように優しい表現を使う
- ・ 移動・食事・排泄について詳しく話す

第 33 回会議

日付 : 2024 年 8 月 5 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、江口健司、長田直也、千葉早耶香

内容要旨 : 2024 年度杏林大学「介助の視点」講義の打ち合わせ

詳細内容 :

- ・ 前半部分よりも具体的な事例を主に取り上げる
- ・ 40分の使い方 前半部分では5感を活用するということを強調する
- ・ 後半部分で事例を2つ組み込んで数人の学生に話をふる時間をとる
- ・ 医学生が注目するような問いかけを冒頭に追加する
- ・ 「医者という時間と介助者という時間、何倍違う？」
- ・ →何百倍と長く接している介助者がどのような視点を持っているのかを知ってほしい
- ・ 体験に行く前の学生に対するメッセージ どんなところを注意してみたら良いか
- ・ 不安をちゃんと伝えるとか、介助者のことをよく見てとか、いつもはどうしてますか？と聞く姿勢
- ・ インタビューは削る
- ・ 扱う事例「疼痛」「心のこと」 診断が見つからない症状にいかに関わりを持つのかを考えたもらう

第34回会議

日付 : 2024 年 8 月 24 日, 25 日

方法 : 対面

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、増田英明、ユジンギョン、小林愛奈、寺内梨花、巽亜紀、政岡、市村、畑、高橋

内容要旨 : 京都府立医科大学講義の打ち合わせ、今後の展開に向けた検討

詳細内容 :

- ・ 3 か年計画 2 年目実施の振り返り
- ・ 次年度見学体験に向けた検討

第35回会議

日付 : 2024 年 8 月 28 日

方法 : zoom

参加者 : 吉澤卓馬、鈴木夏翔、千葉早耶香

内容要旨 : 2024 年度弘前大学「学生介助者経験談」講義の打ち合わせ

詳細内容 :

- ・ 全体の構成の見直し、テーマの焦点化をする
- ・ 写真を追加する

- ・ ICF の個人因子をより具体的にする
- ・ PPT のデザインの修正

第 36 回会議

日付 : 2024 年 8 月 30 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、小田瞳、長田直也、仲宗根啓、三枝奈都子、江頭説子

内容要旨 : 杏林大学の講義振り返り

詳細内容 :

- ・ 学生の質が悪いと感じる意見があるが、内容はわかりやすくなっている。
- ・ おしゃべりしている学生はいなかった。
- ・ 質問があって答えるスタイルが良いと感じる。
- ・ 医療の視点での質問が追加で聞かれた。
- ・ 学生メインで質問をしてもらうのが良いと感じる。
- ・ カメラが気になったが、学生からの反応が良かった。
- ・ カフアシストで盛り上がった。
- ・ 去年とは別の講義でリアクションが良かった。
- ・ 学生の話とコミュニケーションの話がわかりやすかった。
- ・ 2画面のスライドを意識するのが難しかった。
- ・ 最初のカフアシストが良かった。
- ・ 医療の視点の授業は前のめりで聞いていた。
- ・ 介助の視点で観察の話をしている。
- ・ 感性豊かな学生が多い。
- ・ 事前に質問を収集するときに名前を出しても良い人を確認しておくが良い。
- ・ 次回からは学生に質問を期待する。
- ・ 10月の講義の進め方についての意見。
- ・ 共有ドライブを作成する。
- ・ 学生には完成した PPT を共有ドライブにアップロードしてもらう。

第 37 回会議

日付 : 2024 年 9 月 19 日

方法 : zoom

参加者 : 和田英人、長田直也、本間里美、千葉早耶香

内容要旨 : 弘前大学「地域で暮らす」講義打ち合わせ

詳細内容 :

- ・ 学生への問いかけを追加すること。
- ・ スライドを印刷して学生に配布し、口頭での説明を短縮すること。
- ・ 和田さんのパワーポイントが見やすく、病院のリアルさが伝わる内容であること。
- ・ 学生に話を振る時間を作ること。
- ・ 和田さんの講義形式を会話形式にすること。
- ・ 学生に考えさせる時間を作り、その間に休憩を取ること。
- ・ 和田さんの人生についての話は省略しても良いが、長田さんは残して欲しいと提案。
- ・ スライドの内容を短縮し、話すスピードを調整すること。
- ・ 写真を多く使い、説明を省くこと。
- ・ 障害者が多く見える街にするという思いを追加すること。
- ・ 学生に問いかけを行い、答えを求めない形式にすること。
- ・ 青森市の障害者の状況についてのデータを提供すること。
- ・ 住宅扶助の金額が少ないことについての話。障害のある人たちの戦いについて話すと。

第 38 回会議

日付 : 2024 年 10 月 2 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、河本満幸

内容要旨 : 山口県立大学開催に向けての打ち合わせ

詳細内容 :

- ・ 専門家の決めつけ : 専門家が患者に対して決めつけを行うことの問題点が指摘されています。
- ・ 患者の権利 : 患者が診療を選ぶ権利についての議論があり、自由権の重要性が強調されています。
- ・ エンパワメント : エンパワメントの重要性と、それを実現するための方法について述べられています。
- ・ 自立生活運動 : 自立生活運動の目的と、その中での自由権の位置づけについて説明されています。
- ・ 訪問医療 : 訪問医療や訪問 OT（作業療法士）の役割についても触れられています。

第 39 回会議

日付 : 2024 年 10 月 10 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、小田瞳、長田直也、仲宗根啓、三枝奈都子、江頭説子

内容要旨 : 杏林振り返り

詳細内容：

- ・ グループワークの初めての試みが成功し、学生たちは些細な変化に気づき、体験や気付きの共有を通じて知識や経験を重ねていた。
- ・ 学生たちはディスカッションを通じて、医師としての立場や障害を自分事として考えることの重要性を学んだ。
- ・ 実習の写真や報告書のフォーマットが良かったと評価され、学生たちの成長が見られた。

第 40 回会議

日付 ： 2024 年 11 月 22 日

方法 ： zoom

参加者 ： 本間里美、千葉早耶香、小国喜弘、今村登、市川貴子、佐藤裕美

内容要旨：東京大学講義打ち合わせ

詳細内容：

- ・ 参加学生: 参加予定人数は 20 人で、男女半々。12 月 13 日までに課題を提出するように伝えしたが、提出は 1 人だけ。
- ・ 講義内容: 講義は 2 単位（105 分×13 回）で、実習 7 コマ分、残り 6 コマ分は講義として 2 つに分ける。
- ・ 1 日目の概要: 初日は目的と目標の確認、障害とは何かを考えることが中心。地域で支える、暮らす、生きる、介助の視点、医療の視点などを学ぶ。
- ・ 目的と目標: 地域医療・福祉に貢献できる人材の姿勢を知り、地域生活に関連する社会制度や職種、多様な視点を学ぶことが目的。
- ・ 講義の方向性: 教育学部対象で、地域生活から学ぶ障害の社会モデルがテーマ。福祉的な視点はそれほど大きくなくても良いとの意見。
- ・ 体験の重要性: 体験を補足できるような講義内容が重要であり、他の授業との橋渡しができるものが望ましい。
- ・ 特別支援教育との関連: 特別支援教育との関連が問われ、地域生活と教育との関係を見せる時間が必要。
- ・ インクルーシブ運動会: インクルーシブ運動会の実施報告があり、教育の場面に繋げることができるとの意見。
- ・ 実習の詳細: 見学・体験は 6 時間、事前オリエンテーションや感染対策、保険、同意書などの確認事項が話し合われた。

第 41 回会議

日付 ： 2024 年 12 月 21 日

方法 ： zoom

参加者 ： 長田直也、本間里美、千葉早耶香、高橋純平、檀原志穂

内容要旨：2024年度振り返り

詳細内容：

- ・ 医学部向けの内容として、医学部向け医療の視点、教則本の活用、講師陣育成、コミュニケーションのアイスブレイク、各講義の尺と内容について議論された。
- ・ 帝京平成大学の成果と課題については、ヒューマンケア学部での講義の成果と課題について話し合わせ、来年度の実施は検討中である。
- ・ 講義の進行は千田が担当し、新講師の育成が課題として挙げられた。
- ・ 学生の参加意識や交通費の問題、教員の負担についても議論された。
- ・ 講義と実習のバランスや、学生のニーズに応じた柔軟な対応が求められた。
- ・ 他大学での実施状況や課題についても報告され、杏林大学、日本医療大学、弘前大学、京都府立医科大学、山口県立大学などでの実施状況や課題が報告された。
- ・ 新講師の参加や講義内容の変化についても議論され、新講師に一日参加してもらうことが良かったと評価された。
- ・ 今後の改善点として、目的・目標の修正、学生のニーズの把握、アイスブレイクの導入、短縮実施などが提案された。

第42回会議

日付：2024年12月28日

方法：zoom

参加者：佐藤裕美、本間里美、千葉早耶香

内容要旨：東京大学講義打ち合わせ

詳細内容：

- ・ 1時間目の冒頭で問題提起「支えているつもりで、隔離したりしているのが教育なのではないか」
- ・ 学生への問いかけ 世の中から隔離されたと感じることはあるか
- ・ お互いの考えを共有 どうして起きるのか？
- ・ 参加者は学生4名
- ・ 2日間で異なる当事者
- ・ STEP えどがわからは日永さんに参加依頼
- ・ 性別と疾患など偏らないように候補者へ連絡

第43回会議

日付：2025年1月10日

方法：zoom

参加者：本間里美、千葉早耶香、松元悦子

内容要旨：山口県立大学振り返りと来年度に向けた打ち合わせ

詳細内容：

- ・ 実習の感想 行ってよかったという声。事前はわからない不安があった。
- ・ 昨年と同様の方法で3コマ+間で有志の実習 県立大学内では了承得られそう
- ・ 新規科目として単位化は厳しい
- ・ 実習の謝金としては1万円、若手研究助成で30万ぐらいとれるかもなのでそこから捻出できそう
- ・ 難病の集い(難病支援の専門職/OT,NS)の参加者に新講師依頼
- ・ 福島さん(ALS協会山口県支部の代)に地域で生きる 新講師依頼
- ・ CIL下関 地域で暮らす、障害とは
- ・ 実習受け入れの候補者も他にいる

第44回会議

日付 : 2024年1月13日

方法 : zoom

参加者 : 長田直也、本間里美、千葉早耶香

内容要旨: 東京大学「地域で暮らす」講義打ち合わせ

詳細内容:

- ・ 1時間目の授業で問題提起し、地域の学校と施設での学びの違いを強調した。
- ・ 長田は、PTやヘルパーの姿勢を知ることの重要性を述べ、サポーターと当事者の視点を取り入れるべきと提案した。
- ・ 学びの重要性とその過程でのエピソードが議論され、特別支援学校での経験が地域生活に与える影響についても触れられた。
- ・ 障害者総合支援法や弁護士的な視点からの知識の重要性も議論された。
- ・ 結論: 学びと地域生活のつながり、特別支援学校での経験が生活に与える影響について深く理解することが重要であると結論付けられた。

第45回会議

日付 : 2024年1月15日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、西留美子

内容要旨: 帝京平成大学次年度開催に向けた打ち合わせ

第46回会議

日付 : 2025年1月16日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、三枝七都子

内容要旨: 杏林大学振り返りと来年度に向けた打ち合わせ

詳細内容:

- ・ 事前学習: 8 月 29 日 (金) 1 限から 5 限まで (9:30~17:30)
- ・ 体験実施日: 9 月 6 日 (土)、13 日 (土)、20 日 (土)、27 日 (土)
- ・ 事後学習: 10 月 9 日 (木) 3 限から 5 限まで (13:15~17:30)
- ・ 去年のスライドショー共有
- ・ フェイスシート更新と共有の期限: 6 月頃
- ・ 次回 7 月頃に事前質問の共有と医療の視点の講義の打ち合わせ
- ・ 事務的な打ち合わせ: 4・5 月くらいに実施
- ・ 去年の流れの確認
- ・ 講師の協力: 市川先生が協力
- ・ 誓約書: 事前説明会で
- ・ アレルギー確認: 配属シートの住所が間違っていた
- ・ 体調管理: 去年と同様
- ・ 最終講義: 2 人に来てもらいたい
- ・ 資料の提出: うまくいかなかった
- ・ PPT 作成: 作成に集中
- ・ 活動報告: 江頭先生の話が良かった
- ・ 学生のコメント: 紹介することで少なく書いた学生はドキッとする
- ・ 資金的な部分
- ・ テキスト配布: 今年も配布
- ・ 質問内容: 学生の質問を集めてから打ち合わせ

第 47 回会議

日付 : 2025 年 1 月 26 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、高野元

内容要旨: 東京大学「地域で生きる」講義打ち合わせ

詳細内容:

- ・ 授業資料の確認

第 48 回会議

日付 : 2025 年 1 月 28 日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、高橋純平

内容要旨: 弘前大学振り返りと来年度に向けた打ち合わせ

詳細内容:

- ・ 日程: 9/24-26、6 月頃なら 1 週間倒し(9/17-19)も可能

- ・ 募集: 6 月頃にチラシ作成して送付
- ・ 対象: 今年度から OT にも声かけ、1・2 年生優先募集
- ・ 授業内容: 文字盤とカフェアシストの体験、集中力を高めるための話
- ・ 場所: 80 人入る、机の動く教室に変更
- ・ 講師: 新しい人に依頼、介助の視点は穂高さん→三上さんに変更の可能性、学生ボランティアの紹介も依頼
- ・ 時間割: 11:50-12:40 が昼休み、10 分ぐらい終了が遅くても問題なし
- ・ 見学体験: 弘前行った子たちは家を見れなかった、8:30 集合で 9:00 出発、青森市内のメンバーは集合可能、去年の参加学生に見学体験説明や 2 日目の実習サポートを依頼
- ・ アンケート: 回答しにくい項目があったので工夫が必要
- ・ 信州大学 PT 学科の先生: 紹介可能
- ・ 事務局: 新講師、チラシ作成、4,5 月に顔合わせ

第 49 回会議

日付 : 2025 年 1 月 28 日

方法 : zoom

参加者 : 猪股、西、山口、本間、千葉

内容要旨 : 帝京平成大学振り返りと来年度に向けた打ち合わせ

詳細内容 :

- ・ 8 月 6 日(水)から 3 日間の予定。第 2 希望は 8 月 9 日からの 3 日間。
- ・ 対象 1 年生 140 名 薬学部や地域連携部のボランティアグループで興味を持っている学生が見学をする可能性がある。
- ・ 安楽死の講義、コミュニケーション体験は継続して欲しい

第 50 回会議

日付 : 2025 年 2 月 6 日

方法 : 対面

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、崔栄繁

内容要旨 : 東京大学「障害の社会モデル」講義に関する打ち合わせ

詳細内容 :

- ・ 参加学生情報の共有
- ・ 講義資料の確認
- ・ 講義後グループワーク内容についての検討

第 51 回会議

日付 : 2025 年 2 月 10 日

方法 : 対面

参加者 : 佐藤裕美、巽亜紀、長谷川唯

内容要旨：京都での授業に関する打ち合わせ

詳細内容：

- ・ 地域生活に関する講義内容の検討

第 52 回会議

日付：2025 年 2 月 26 日

方法：Zoom

参加者：本間里美、千葉早耶香、猪股先生、西先生、山口先生

内容要旨：来年度帝京平成大学での開催に向けた打ち合わせ

詳細内容：

- ・ 8 月 6 日(水)から 3 日間の予定。第 2 希望は 8 月 9 日からの 3 日間。1 年生 140 名を対象とする
- ・ 講義内容は今年度から継続 特にコミュニケーション体験や安楽死の話題は学生の反応が良かった
- ・ 薬学部や新 2 年生にも声を掛ける予定

Ⅲ. 授業資料作成に伴う実態調査

1. 「地域で支える」

担当：本間里美

実施日：2024 年 4 月 6 日、11 月 14 日（千葉県・松戸市）、6 月 12 日－14 日（北海道・札幌市）、6 月 18 日（神奈川県・横浜市）、8 月 1 日（千葉県・鎌ヶ谷市）、

内容：各地域における当事者やその支援者の在宅生活に関する実態調査

2. 「地域で生きる」

担当：岡部宏生

実施日：2024 年 6 月 12 日－14 日（北海道・札幌市）、7 月 11－12 日（長野）

内容：各地域における当事者やその支援者の在宅生活に関する実態調査

3. 東京大学講義

担当：佐藤裕美

実施日：2024 年 9 月 28 日(広島)、11 月 30 日～12 月 1 日(宮城)、2025 年 1 月 26 日(京都)

Ⅳ. 活動報告|新規の運営事務局の新設に向けた取り組み

第 1 回会議

日付：2024 年 4 月 2 日

方法：zoom

参加者：本間里美、櫻井こずえ、千葉早耶香、高橋純平、長田直也、穂高優子、和田英人、三上勝司

内容要旨：

2024 年度弘前大学でのプロジェクト実施に関する打ち合わせ

詳細内容：

- ・見学体験にて協力を得る CIL 青森の担当者への説明を実施
- ・日程は 9 月 25 日から 27 日の 3 日間開催
- ・受け入れ当事者は 5 名の予定で、1 人につき 2 人の学生を担当
- ・参加の学生は理学療法専攻の学生のみ

第 2 回会議

日付：2024 年 4 月 11 日

方法：zoom

参加者：本間里美、千葉早耶香、櫻井こずえ、長田直也、岡部宏生、日本福祉大学原田正樹、CIL アクセル佐藤

内容要旨：日本福祉大学での開催に向けての説明

詳細内容：

- ・カリキュラムの詳細について説明
- ・愛知の CIL 団体は 6 団体あるため見学体験はそこに連携を依頼
- ・既存科目へ組み入れる形での実施を検討

第 3 回会議

日付：2024 年 6 月 22 日

方法：対面

参加者：長田直也、本間里美、千葉早耶香、穂高優子

内容要旨：事業説明および講師依頼

詳細内容：

- ・事業実績の説明
- ・新規開催地域の検討
- ・CIL 青森での実施に関する打ち合わせ
- ・弘前大学での「介助者の視点」講義の講師依頼

第 4 回会議

日付：2024 年 7 月 18 日

方法：zoom

参加者：長田直也、河本、本間里美、千葉早耶香

内容要旨：CIL 下関代表河本様へ山口県立大学での開催に向けた説明

詳細内容：

開催予定は10月22日、29日16:20-17:50、11月

第5回会議

日付 : 2025年1月23日

方法 : zoom

参加者 : 本間里美、千葉早耶香、愛知淑徳大学志村英二

内容要旨: 愛知での開催に向けた事業説明

詳細内容:

- ・ 本事業の説明と成果の共有
- ・ 来年度実施に向けた検討

第6回会議

日付 : 2025年1月20日

方法 : zoom

参加者 : 長田直也、CIL 星空井谷しげと、浅沼、本間里美、千葉早耶香

内容要旨: 愛媛での開催に向けた事業説明

詳細内容:

- ・ 本事業の説明と成果の共有
- ・ CIL 星空と大学で行っている実習受け入れは、障害理解や自立生活の話を含む2日間のプログラムで行われている。
- ・ 受け入れ人数は2~3人または12~13人で、2日間を2サイクルで実施。
- ・ 看護学科の先生たちは、看護を学ぶ上で早い段階でこの実習を知っておくことが重要だと考えている。
- ・ 実習は毎年1年生と2年生を対象に行われており、看護大学の先生たちとの信頼関係が重要。
- ・ 学生の反応を含めた資料を教員に提供し、話し合いの機会を作ることが提案されている。
- ・ 新しいカリプロを導入するか、既存の科目に組み込むことが検討されている。
- ・ 普段の講義では、ALS当事者が地域で生きる講義を行っている。
- ・ CIL 星空の職員であるALS当事者が愛媛のALS協会副理事長を務めている。
- ・ 大学の先生との打ち合わせ日時を相談

第7回会議

日付 : 2025年2月26日

方法 : zoom

参加者：長田直也、CIL 星空井谷しげと、浅沼、本間里美、千葉早耶香、青井みどり先生(地域在宅)、山口綾先生(地域在宅)

内容要旨：愛媛での開催に向けた事業説明

詳細内容：

- ・ 地域実習の重要性: 学生たちは病院だけではなく、地域での看護の重要性を理解し、実習を通じてショックを受けている。
- ・ 実習費用と支払い: 1人あたりの実習費用は1200円で、大学が交通費を負担する場合もある。杏林大学は全額負担している。
- ・ プログラムの運営: 新しい科目として講師を雇用し、実習プログラムを実施することが提案されている。
- ・ 学生の体験と成長: 学生たちは実際の患者との接触を通じて、地域理解やコミュニケーションスキルの向上を図っている。

第8回会議

日付：2025年2月19日

方法：対面

参加者：佐藤裕美、富士恵美子

内容要旨：愛知での開催に向けた相談

詳細内容：

- ・ すでに実施されている看護学生や医学生による実習に付いての情報共有
- ・ 愛知県での実施に関する相談

第9回会議

日付：2025年3月2日

方法：対面

参加者：佐藤裕美、及川智

内容要旨：宮城での運営事務局新設に向けた相談

詳細内容：

- ・ 当団体事務局の運営についての情報共有、引き継ぎの相談

第10回会議

日付：2025年3月24日

方法：Zoom

参加者：本間、千葉、長田、寺嶋(VISION)、伊藤(中京大学)

内容要旨：中京大学での実施と、CILVISIONとの連携に向けた説明

詳細内容：

- ・ カリキュラム化プロジェクトの説明
- ・ 当団体事務局の運営についての情報共有

- ・ 中京大学での実践に関する情報共有
- ・ 次年度の開催に向けた調整

V. モデルカリキュラム実施結果

開催地域は東京(3箇所)、京都、北海道、宮城、青森、山口の6地域で、全8箇所の大学で実施した。なお、弘前大学、山口県立大学、東京大学は初開催であり、国公立大学にも拡大が進んでいる。また、東京大学では医療系以外の学部では初となる教育学部での開催となった。

京都府立医科大学

概要

日付 : 2024年5月8日、12月16日
 場所 : 京都府立医科大学
 対象 : 看護学科3年生81名
 ご協力いただいた当事者: 講師1名

内容要旨

地域生活を支えるアイテムの実際、多職種のスタンス

詳細内容

- ・ 3か年計画の2年目
- ・ 「在宅看護概論 療養の場の移行に伴う看護」科目内での実施
- ・ 岡部の自宅よりオンラインで実施した

帝京平成大学

概要

日付: 2024年8月8日～10日
 場所: 帝京平成大学
 参加者: 看護学科の1年生 講義131名 実習14名 (インターン学生1名)
 ご協力いただいた当事者: 講師4名 実習受け入れ8名

内容要旨

3日間の講義と2日間の見学体験

詳細内容

■公式 note にて報告レポートを作成

https://note.com/npo_sakaiwokoete/n/n17eb19b20157?magazine_key=me5e4dcb86db7

アンケート（受講学生 13 名回答）

「講義の内容は目的・目標に対して適切でしたか？」

→ とてもそう思う 92.3% そう思う 7.7% あまりそう思わない 0% 全くそう思わない 0%

「講義の難易度はどうでしたか？」

→ とても簡単だった 15.4% 簡単だった 38.5% 難しかった 30.8% とても難しかった 15.4%

「時間配分など講義の進め方は適切でしたか」

→ とてもそう思う 84.6% そう思う 15.4% あまりそう思わない 0% 全くそう思わない 0%

「講義の内容に興味・関心は持てましたか」

→ とてもあてはまる 100% あてはまる 0% あてはまらない 0% 全くあてはまらない 0%

自由記載のまとめ

評価

講義について

- ・ 社会が障がいについて理解することが大切
- ・ 当事者の思いと周囲人たちの理解しようとする姿勢が生きやすい社会に繋がること
- ・ 最後の岡部さんの話が印象に残った

見学・体験について

- ・ 実際にご家族の声や現場の雰囲気、当事者の生活、どのようなサポートが必要かを知れて良かった
- ・ とても貴重な良い体験が出来、率先して応募して良かった
- ・ 健常者が個性と言われるように障害もひとつの個性なのだと思った

障がいのとらええ方について

- ・ 障がいはその人の特徴であり、マイナスなことではない
- ・ 特別に見るということが当事者にとっては強い苦痛につながっているということ
- ・ 分かりきったつもりで手伝うより、どうしてほしいかを聞いてほしい、ということを知り初めて知った

グループワークの感想

- ・ 多くの意見が共有できたため、自分の意見に深まりができた
- ・ 色々な意見を聞いて、視野が広がりとても勉強になった

- ・ 障がいというテーマだけで意見も人それぞれで、そんな考えもあるのかと、新しい発見につながった

課題

- ・ 周囲が持つ障害に対しての暗いイメージを、今回の学びで得た物を伝えていきたい
- ・ あまり興味がなかった在宅看護について、深く知りたいと思った

アンケート（受け入れ当事者 5 名回答）

「カリキュラムの目的・目標は明確でしたか」

→ とてもそう思う 80% そう思う 20% あまりそう思わない 0% 全くそう思わない 0%

「目標に対して見学・体験の期間は適切でしたか」

→ 短すぎる 0% 丁度良い 100% 長すぎる 0%

「学生は見学・体験に対して積極的に取り組んでいましたか」

→ とてもそう思う 100% そう思う 0% あまりそう思わない 0% そう思わない 0%

「見学・体験の際に学生の態度やマナーについて、良かった点や悪かった点がありましたか あった方はその理由も記載してください 」

- ・ 緊張していたせいか質問を事前に考えていなくて沈黙の時間があつた
- ・ 2 名とも礼儀が素晴らしかった
- ・ こちらで考えいた以上に積極的で、ヘルパーさんと私も楽しい時間を過ごせた
- ・ 自分自身の将来を意識しながら、日頃から抱える問題意識なども頭の隅に置いて臨んでいるのを強く感じた

「見学・体験を受け入れる際に困ったこと」

- ・ 愛犬がそばにいるのが私の生活なので、犬アレルギーや犬が苦手な子は避けてほしい

「カリキュラムのご意見・ご感想」のまとめ

プログラム全体に対する肯定的な感想

- ・ とても良いカリキュラムだと思うため、今後も続けてほしい
- ・ 医療従事者を目指す過程で、リアルな生活を体験することは、非常に有意義だと思う
- ・ この経験を活かし医療職としてだけではなく、社会を構成する“当事者”の 1 人として、多様で豊かな人の在り方、生き方を知っている 1 人の人として、柔軟な頭と心と、社会課題への関心を持ち続け、学び続け、社会に関わり続けていただきたいと願っている

改善点や提案

- ・ 上限ありきで、外出で使える費用等があると良いと考える

- ・ 体験中に貧血で座り込んでしまった子がいたため、持病やそれに起こりうることや対応などの情報があるといいと思った

日本医療大学

概要

日 付：2024 年 9 月 4 日～6 日

場 所：日本医療大学

参加者：保健医療学部（理学療法・作業療法専攻）の 1-3 年生 33 名

ご協力いただいた当事者：講師 2 名 実習受け入れ 17 名

内容要旨

3 日間の講義と 2 日間の見学体験

詳細内容

■公式 note にて報告レポートを作成

https://note.com/npo_sakaiwokoete/n/nebadb9e10900?magazine_key=me5e4dcb86db7#3a306d0c-7df4-43d2-b27c-d4ad1d126959

アンケート（受講学生 27 名回答）

「講義の内容は目的・目標に対して適切でしたか？」

→ とてもそう思う 92.6%、そう思う 4%、あまりそう思わない 0%、そう思わない 0%

「講義の難易度はどうでしたか」

→ とても簡単だった 11.1%、簡単だった 25.9%、難しかった 55.6%、とても難しかった 7.4%

「時間配分などの講義の進め方は適切でしたか」

→ とてもあてはまる 44.4%、あてはまる 40.7%、あてはまらない 14.8%、全くあてはまらない 0%

「講義の内容に興味・関心は持てましたか」

→ とても持てた 92.6%、持てた 7.4%、あまり持てなかった 0%、持てなかった 0%

「自由記載のまとめ」

評価

講義について

- ・ 障がいとはただの個性で、障がいがあっても私たちと同じ暮らしをしているということ
- ・ 障がいとはということについて、当事者や参加した人たちの意見が知れて、考えが深まり、今後の自分の視野が広がった
- ・ 障がいとは生活が大変になる要因ではあるが、やりたいことを諦める要因ではないということ

- ・ 当事者の考えは、健常者と何も変わらないということが分かった

見学体験について

- ・ 生きていくために、呼吸器という 1 つの手段を使用しているだけであって、何も変わらない、みんな自分なりに生きていいと考えた
- ・ 当事者と一緒に行動することで、普段気にしない段差や道の広さなど、実際に意識しないと気づかない障害物がたくさんあり、とても視野が広がった
- ・ 講義を受ける前の障がい者のイメージは、塞ぎ込み、コミュニケーションをとることも難しいと考えており、実習先でも質問は手短に済ませた方が良かったと思っていたが、コミュニケーションをとってくれる方で、先入観を持ちすぎていたと感じた

障がいのとらえ方について

- ・ そもそも障がいとっていいのか、それ自体差別だということを知った
- ・ 障がいは個性であり、基本健常者と変わらない
- ・ 本当の意味で、障がい者となるかどうかは、周囲のサポートによって決まるのかも知れないということ
- ・ 障がいを持っていても、私たちとは違うやり方、方法で生きているだけだということ、寝る時間が人によって異なるのと同じようなものだということ
- ・ 決して個人だけの問題ではなく、社会としての問題であること

グループワークの感想

- ・ みんなで話し合うことによって、自分にはない視点で考えを深めることが出来、3 日目の講義を通して、今まで学んだことのまとめが出来た
- ・ 3 日間同じ講義を受けていても、考えや感想は人それぞれなのだと感じた
- ・ 障がいは当事者だけにあるものではないと気付けた

それぞれが体験してきたことをシェアし、知れたこと、ほかのグループの意見を聞いたことがよかった

課題

- ・ グループワークはもっと深く話し合った方が良かったと思う
- ・ 体験した 6 時間というのが本当に短く、もっと当事者のことを知りたかった
- ・ 内容が少し多く感じた

■ アンケート（受け入れ当事者 6 名回答）

「カリキュラムの目的・目標は明確でしたか」

→ とてもそう思う 50%、そう思う 33.3%、あまりそう思わない 16.7%、そう思わない 0%

「目標に対して見学・体験の期間は適切でしたか」

→ 短すぎる 0%、ちょうど良い 100%、長すぎる 0%、もう少し時間がほしい 0%

「学生は見学・体験に対して積極的に取り組んでいましたか」

→ とてもそう思う 100%、そう思う 0%、あまりそう思わない 0%、そう思わない 0%

「カリキュラムのご意見・ご感想」

- ・ 真剣に地域福祉の話をしっかり聞いてくれて、質問がもっとあると良いと思った
- ・ 介護職が行う医療的ケアでグレーゾーンや、原則、介護職が行うことを禁じている医療的ケアを見学、体験においてどこまで説明していいか戸惑った
- ・ 大変意義のある取り組みだと思うので、カリキュラム化が実現してほしい
- ・ それぞれ学生さんも、課題も質問以外に持ってもらえると良いと思った

東北文化学園大学

概要

日 付：2024 年 9 月 13 日～15 日

場 所：東北文化学園大学

参加者：医療福祉学部リハビリテーション学科・看護学科 1～2 年生 18 名

ご協力いただいた当事者：講師 3 名 実習受け入れ 6 名

内容要旨

3 日間の講義と 2 日間の見学体験

詳細内容

■公式 note にて報告レポートを作成

https://note.com/npo_sakaiwokoete/n/nebadb9e10900?magazine_key=me5e4dcb86db7#3a306d0c-7df4-43d2-b27c-d4ad1d126959

アンケート（受講学生 8 名回答）

「講義の内容は目的・目標に対して適切でしたか？」

→ とてもそう思う 92.3%、そう思う 0%、あまりそう思わない 7.7%、そう思わない 0%

「講義の難易度はどうでしたか」

→ とても簡単だった 15.4%、簡単だった 30.8%、難しかった 38.5%、とても難しかった 15.4%

「時間配分などの講義の進め方は適切でしたか」

→ とてもそう思う 53.8%、そう思う 30.8%、あまりそう思わない 7.7%、そう思わない 7.7%

「講義の内容に興味・関心は持てましたか」

→ とてもあてはまる 76.9%、あてはまる 7.7%、あてはまらない 15.4%、全くあてはまらない 0%

自由記載のまとめ

評価

講義について

- ・ 自分の当たり前が、全部当たり前ではないと気づかされた
- ・ 障がいについて深く考えることが出来る、良い機会になったと同時に、障がい者に対する考え方が変わった
- ・ 色々な人に支えられて生きる姿に、人の暖かみを感じた

見学・体験について

- ・ 当事者とコミュニケーションをとって気づいたことは、障がい者でも補助があっても出来ること、努力によって出来ることがあるということ
- ・ 自分が住んでいる近くに障がいを持った方がいるということを知れただけでも障がいを持った方を身近に感じられた
- ・ 手浴の体験をして、声かけや口文字で意思を読み取ることが出来た

障がいのとらえ方について

- ・ 排除、区別、制限をなくし、配慮があれば障がいはなくせるということ、補助があれば自分らしく生きられるということ
- ・ 気持ちの面でも支えるのが大切で、可能性を信じることを初めて知った
- ・ 障がいがあるから障がい者であると考えのではなく、健常者と同じように暮らせる工夫が出来ていない社会の仕組み自体が障がいという考え方が新鮮だった

グループワークの感想

- ・ 医療職の在り方や、私たちが出来ることを学ぶことが出来、何でも聞く姿勢が大切だと思った
- ・ 1日目はテーマがふんわりしていて、何を話し合えばいいのか？と話し合いが進まないことがあったが、3日目は具体的にになっていたため、話しやすかった
- ・ グループの意見も聞けて、グループの人と仲良くなったのが嬉しかった

課題

- ・ それぞれ色々な方と話して体験して、という体験の共有をもう少しグループワークの時間でやりたかった
- ・ 着替えやタオルなどを持って行き、大荷物になったため、事前に大まかな予定表などが欲しかった
- ・ 全体的に初めての内容と、専門的な知識が問われるような話が多く、難易度が高いと感じたため、スライド資料を配付してほしかった

アンケート（受け入れ当事者9名回答）

「カリキュラムの目的・目標は明確でしたか」

→ とてもそう思う 66.7%、そう思う 33.3%、あまりそう思わない 0%、そう思わない 0%

「目標に対して見学・体験の期間は適切でしたか」

→ 短すぎる 0%、ちょうど良い 88.9%、長すぎる 11.1%、行うことに意義があるので短すぎることはないが短い 0%

「学生は見学・体験に対して積極的に取り組んでいましたか」

→ とてもそう思う 66.7%、そう思う 33.3%、あまりそう思わない 0%、そう思わない 0%

「学生の様子について」

- ・ 学生さんが二人体制で 2 人が手伝いますよ？と、私への声がけ以外もあり、微笑ましい時だった
- ・ 想像と実際の障がい者の暮らしに触れて、戸惑いもあったと思うが、積極的に解らないところは質問し、当事者だけでなく介助者にも質問して素晴らしいなと感じた
- ・ 普段は金髪だった髪を黒くしていて、積極的にメモを取り、映画も真剣に見ていた何より、私の食事を一緒に食べてくれた なかなかできることではないと思う

「カリキュラムのご意見・ご感想」

- ・ 具体的にどんなことを学びたいか前もって聞いていたら、もっと準備ができたと思った
- ・ 終了後もっとやれたことがあったかなと自問自答しているが、地域で自立生活を送っている重度障がい者のリアルを学んでもらえたのが何よりよかった

弘前大学

概要

日 付：2024 年 9 月 25 日～27 日

場 所：弘前大学本町キャンパス

対象：医学部保健学科理学療法学専攻 1～3 年生 10 名

ご協力いただいた当事者：講師 2 名 実習受け入れ 5 名（CIL 青森）

内容要旨

3 日間の講義と 2 日間の見学体験

詳細内容

■公式 note にて報告レポートを作成

https://note.com/npo_sakaiwokoete/n/nd024cd646829?magazine_key=mdb832e71e123

アンケート（受講学生 10 名回答）

「講義の内容は目的・目標に対して適切でしたか？」

→ とてもそう思う 90%、そう思う 10%、あまりそう思わない 0%、そう思わない 0%

「講義の難易度はどうでしたか」

→ とても簡単だった 0%、簡単だった 10%、難しかった 70%、とても難しかった 20%

「時間配分などの講義の進め方は適切でしたか」

→ とてもそう思う 70%、そう思う 30%、あまりそう思わない 0%、そう思わない 0%

「講義の内容に興味・関心は持てましたか」

→ とてもあてはまる 90%、あてはまる 10%、あてはまらない 0%、全くあてはまらない 0%

自由記載のまとめ

評価

講義について

- ・ 当事者の方のしてほしいことと医療従事者がしたいことは違うため、当事者の方の意見にどれだけ寄り添えるかが重要だと言うことが印象に残った
- ・ 障がいや生死については、簡単に考えられることなく、悩みながらもまっすぐ向き合って、それらについて考え続けることが大事なのかもしれないと思った
- ・ 今まで触れることがなかった世界に触れることができ、この経験を今後の活動に生かして行きたい

見学体験について

- ・ 実際に関わるまでと関わってからでは障がいをもった方への考え方が変わり、イメージがかなり変化した
- ・ 私は障がいを持っている方は暗いという先入観を持っていたが、趣味も大事にしている、障がいについても色々と聞くことができ、実情を知れたのも良かった
- ・ 思っていた以上に当事者主体の生活をおくっていたのが印象に残った

障がいのとらえ方について

- ・ 当事者の意識や心の中にも障がいを生み出す壁があるが、当事者、そして周りの方の捉え方次第で障がいではなくなるということ
- ・ 環境因子でみると、段差などの車椅子の人や障がいを持った方に寄り添った設備にしていけない、環境が問題だということ
- ・ 障がいとは、心身に影響が出るから生活に支障が出るといった機能的な面からの視点だけではなく、周りの環境や、本人の考えが障がいを生み出しているという考え方が出来た

グループワークの感想

- ・ 障害をもった方、私たち関係なく、生きていればなにか希望が持てるのではないかと考えさせられた 3日間ありがとうございました
- ・ グループワークを行うことで、自分以外の意見を知ることができ、考えが広がったように感じる

- ・ 障害とは何か実習や講義を受けることによる一日目から考え方が他の人はどのように変化したのかをグループワークを通して知ることができ、自分では思いつかなかった意見などもあったため考えが深まりとても良かったと思う

課題

- ・ 理学療法士を目指す学生として、これからの授業や実習の際に、患者さんではなく人として接することを心がけようと思った
- ・ 今回の授業をうけ、次の機会や臨床で授業で話した相互理解、そのためにはどうするかを考えながら一個人としと考えリハビリやコミュニケーションを行っていけるとよいなと思った 自身の目標や、とりまく環境の課題として、やはり当事者の現状への理解がまだまだ足りてないと思うので発信をする機会を今後設けていけられれば良いなと思う
- ・ 全体を通して障害という大きく捉えにくい物について深く考えることができたと思ったが、日程を2、3日とって行うことができたならより深く当事者の方と触れ合えたのかなと思う
- ・ 内容的に難しくなるが、疾患についてもっと知りたいと思ったので、そのことも講義に取り入れてほしい
- ・ 事前の打ち合わせなどで、どういったことを見学できるか知らせてもらえると心構えや準備がしやすくなると感じた

アンケート（受け入れ当事者4名回答）

「カリキュラムの目的・目標は明確でしたか」

→ とてもそう思う 50%、そう思う 0%、あまりそう思わない 0%、そう思わない 0%

「目標に対して見学・体験の期間は適切でしたか」

→ 短すぎる 25%、ちょうど良い 75%、長すぎる 0%、行うことに意義があるので短すぎることはないが短い 0%

「学生は見学・体験に対して積極的に取り組んでいましたか」

→ とてもそう思う 50%、そう思う 50%、あまりそう思わない 0%、そう思わない 0%

「学生の様子について」

- ・ 話を聞くという姿勢がよかった
- ・ 挨拶や言葉使いが丁寧で、敬意を払ってくれたことが良かった
- ・ 学生さんたちがとても明るく、接しやすかった
- ・ 素直で悪い感じには見えなかった
- ・ 自分もいい経験が出来ました
- ・ 私たちの自立生活が大学の授業として取り上げてもらえ、光栄だった これからもこのような交流を続けていけば、お互いにプラスになるのではないかとわくわくしている

- ・ 今回の出会いを経てこの業界で働いてくれれば良いなと思った
- ・ 自宅訪問の際、時間が足りず、見せようと思っていたことが見せられなかったこと

杏林大学

概要

日 付：2024 年 9 月日~月日（事前学習、体験学習、事後学習の 3 日間）

場 所：杏林大学三鷹キャンパス/当事者宅

参加者：医学部 3 年生 名

ご協力いただいた当事者：講師名 実習受け入れ名

内容要旨

事前事後学習として講義 2 日間、実習

アンケート（受講学生 116 名回答）

「講義の内容は目的・目標に対して適切でしたか？」

→とてもそう思う 78.4%、そう思う 18.1%、あまりそう思わない 3.4%、そう思わない 0 %

「講義の難易度はどうでしたか」

→とても簡単だった 13.8%、簡単だった 47.4%、難しかった 35.3%、とても難しかった 3.4%

「時間配分などの講義の進め方は適切でしたか」

→とてもそう思う 45.7%、そう思う 41.4%、あまりそう思わない 11.2%、そう思わない 1.7%

「講義の内容に興味・関心は持てましたか」

→とても持てた 66.4%、持てた 29.3%、あまり持てなかった 3.4%、持てなかった 0.9%

「自由記載のまとめ」

評価

事前学習について

- ・ 同じことが起きても、それを幸せに感じるか不幸に感じるかそれとも何も感じないか、自分の心の貧しさを感じ、自分自身を見つめ直すきっかけとなった
- ・ 今回は発話が困難ではない方と困難な方両方のお話が聞くことで、それぞれの QOL を保つ工夫を知ることができ貴重な時間となった
- ・ 想像していたよりも患者さんは明るくアクティブで、とても楽しそうに生活していること

見学・体験について

- ・ 受け入れてくださった方のありのままの生活を見ることができ、文字盤、目線でパソコン入力など貴重な体験をたくさんできて楽しかった

- ・ 実際に電動車椅子に乗ることによって、バリアフリーの整ってあるところ、整っていない部分を感じることができて、問題点なども分かり、貴重な体験となった
- ・ 24 時間、ヘルパーさんと共に暮らしていることを知った時は少し衝撃を受けたが、2 人の間には強い信頼関係があり、すごく素敵な関係性であると感じた
- ・ 私が訪問させていただいた方は様々なことを体験させて下さり、自分たちが当事者の方の生活の一部になったようで、それが本当に貴重な時間だったと感じる

事後学習について

- ・ 事後学習でも先生方から興味深い話がたくさん聞けてよかったが、一方で、これは体験前に聞いた方がより深く学べたのではという内容もあったと思う
- ・ 初めの、差別とは一体なんなのかということとはとても考えさせられた
- ・ 誰もが何気なく口にする言葉でも障がい者にとって差別とも捉えられるということに、とても難しい問題だと感じた

障がいのとらえ方について

- ・ 差別に関して考えさせられた 本心に明らかな差別は差別をしている本人も悪気があるとはっていると思うが、今日聞いたような「元気な赤ちゃんを産んでください」などは決まり文句みたいな感じでいう感覚だった それを聞いて複雑な気持ちになる人がいるということを考えたこともなかった そういう人がいる事を知れてよかった 知らないままでいるということは、知らない間に誰かを傷つけて、知らないままでいる事になるからである それはあまりにも恐ろしい
- ・ 自分の中にひとつ新しく障がい者に対しての考え方見え方が生まれたので良かった
- ・ 障がい者にフレンドリーな社会に整える必要があると感じた 障がい者の方が望んでいることは高度なことでなく一人一人が知ろうとする姿勢だったり、できる範囲での支援だったりするのだと思った

地域医療体験学習について

- ・ 地域医療体験学習を通じて、地域医療が単に病気の治療に留まらず、当事者の方たちの生活そのものを支える役割を果たしていることを実感した 住民に寄り添った医療を提供するために、地域特有のニーズに対応する柔軟性も求められると感じた 当事者の方も考えが人それぞれあるため、身近にいるヘルパーさんも含め多職種との連携を図ることで、生活だけでなく精神的サポートし、当事者の方たちの QOL を向上させることができるのではないかなと思う
- ・ "知ってること"と"出来ること"の違いを痛感した これからは出来ることを増やしていきたい
- ・ 今回実習を通して学んだ本当の意味での、患者さんに寄り添った医療を提供できる医師になりたいと改めて思った 医療制度に関する知識も深めて行きたいと思う

課題や目標

- ・ 何が障がい者の方の暮らしをよくするのかという知識が不足していると感じたので、もっと知識を増やしていきたい
- ・ 私の課題は、大きな問題に対して「自分がやってることや考えてることなんてちっぽけだ」とおもって諦めがちになることです。すぐ諦めないで、まわりに相談してみたり、実際に行動にうつしてみたいとおもう

感想・意見

- ・ 現場に出るという、自分で掴みに行くにはハードルの高い経験を授業の一環として体験する機会をいただけたことに感謝しています。貴重な機会をありがとうございました
- ・ 今回感じた気持ちは今後忘れたくないと思うような、貴重な体験をさせていただいた。授業で先生方がおっしゃっていたことも覚えていたい、心に残るものだった。多くの人が関わり、準備や対応が難しい体験学習であると思うが、今後、後輩の代でもこの体験学習が続いていけば良いなと思った。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました
- ・ 今回の体験学習では多くのことを学び、考えさせられた。医師になる前に学生のうちにこのような体験をすることができてよかった。ありがとうございました

課題

事前学習について

- ・ それぞれのスライドを見直せるように可能であればユニバなどにアップしてほしいなと思った
- ・ あまり分からない言葉もあり多少難しく感じた部分があった
- ・ 時間配分的に仕方がない事だとは思いますが、休憩時間が短かった。最後の方はせっかく貴重なお話をしていただいているのに、少し聞き疲れた……という気持ちになってしまったため、通常の講義と同じく 15 分の休憩を頂けたら嬉しかった

見学・体験について

- ・ 体験学習の後のアンケートの内容が良くなかったと感じた。とてもいい経験をして考えたことが沢山あったのに、感想など書かせて貰えなかったのが残念だった
- ・ 全員に交通費が出るようにしてほしい。なるべく配属先が近くなるようにしてほしい。昼食の時間を確実に設ける等流れを決めて欲しい

事後学習について

- ・ 休憩なく通しで行うので話が入ってきづらかった
- ・ 少し、受け身授業だと感じた。発表形式など導入するとより楽しかったと思う
- ・ 生と死について最後まで多くを述べていただいたのですが、全然理解できなかった。資料をアップロードしていただけるとありがたいと思った

感想・意見

- ・ 座学の時間で休憩が短く、トイレが並んでいる時は行けなかったのが改善してほしい

山口県立大学

概要

日 付：2024 年 10 月 22 日、10 月 29 日、11 月 26 日

場 所：山口県立大学

対象：看護栄養学部看護学科 2 年生 56 名、山口県内保健医療福祉従事者及び当事者
10 名(オンライン参加含む)

ご協力いただいた当事者：講師 3 名 実習受け入れ 4 名

内容要旨：

「地域・在宅看護論Ⅰ」内の 3 コマを実施し、有志の学生を対象に 1 日間の見学体験を行った。

アンケート（受講学生 10 名回答）

「講義の内容は目的・目標に対して適切でしたか？」

→ とてもそう思う 90%、そう思う 10%、あまりそう思わない 0%、そう思わない 0%

「講義の難易度はどうでしたか」

→ とても簡単だった 20%、簡単だった 60%、難しかった 20%、とても難しかった 0%

「時間配分などの講義の進め方は適切でしたか」

→ とてもそう思う 66.7%、そう思う 22.2%、あまりそう思わない 11.1%、そう思わない 0%

「講義の内容に興味・関心は持てましたか」

→ とてもあてはまる 80%、あてはまる 20%、あてはまらない 0%、全くあてはまらない 0%

自由記載のまとめ

評価

講義について

- ・ 講義前は在宅療養よりも施設や病院でケアしてもらう方が、専門職が身近にいて家族の負担にもならなくていいのではないかと思っていたが、施設で生活するということは自分の想像以上に自由がなく、当事者の方々の多くが地域で暮らす選択をする理由が垣間見えたこと
- ・ 職種について知らなかった職種や具体的に何をやっているのかわからなかった職種について詳しく知ることができてよかった
- ・ 講義を聞いて自分が看護職としてこれからどのように患者さん、利用者さんと接していけばいいのかわかった
- ・ 当事者の方からのお話を聞くことができる機会はあまりないため、より話に重みがあり、理解を深めることができた

見学・体験について

- ・ たくさんお話ができてとても充実した1日だった
- ・ 在宅での生活全般のケアを見学することができて良かった もっと買い物など外出の様子をみたかった気もした ありがとうございます

その他

- ・ 今までは想像がつきにくかった地域で暮らす障がい者の方の話聞くことでより具体的に想像ができたし、将来看護職として地域で働きたいと思っている私は在宅医療に対して興味がわいた
- ・ 境を越えての講義や、地域療養者・介護者体験の演習の振り返りを通して、国民生活基礎調査から高齢化や核家族化の現状、ジェノグラムとエコマップからみえてくる老老介護の問題の根深さ、ボディメカニクスの原理に沿った介助が印象に残った ペアワークやグループワーク、全体への意見共有もあったので、自他の意見の違いや共通点、考察を知ることができて学習の理解が深まった

課題

- ・ 看護師になった時に生きる希望がない人と関わることもあると思うからそんな人に生きていいんだよと思わせられるような関わりを持ち、その人達が安心して生きていけるように苦痛の緩和などの看護を行いたい
- ・ まだまだ知らないことが多いと感じたため、多くの知識をつけていきたいと思った
- ・ 支援する側の人の1日のすることや本音なども知りたかった

東京大学

概要

日 付：2025年2月10日~2月14日

場 所：東京大学本郷キャンパス

参加者：文学部4年生1名、法学部4年生1名、教育学部修士1年生1名、教育学部修士2年生1名

ご協力いただいた当事者：講師5名 実習受け入れ4名

内容要旨

アンケート（受講学生90名回答）

「講義の内容は目的・目標に対して適切でしたか？」

→とてもそう思う50%、そう思う50%、あまりそう思わない0%、そう思わない0%

「講義の難易度はどうでしたか」

→とても簡単だった0%、簡単だった75%、難しかった25%、とても難しかった0%

「時間配分などの講義の進め方は適切でしたか」

→→とてもそう思う 50%、そう思う 25%、あまりそう思わない 25%、そう思わない 0%

「講義の内容に興味・関心は持てましたか」

→とてもあてはまる 100%、あてはまる 0%、あてはまらない 0%、全くあてはまらない 0%

自由記載のまとめ

評価

講義について

- ・ 全体を通して、講師の先生や参加している学生とのディスカッションの時間がとても楽しかった 他者の感じていることや経験を共有してもらい、それをもとに講義内容について考えられたので、とても充実していた 最終日のディスカッション、そして岡部さんの提示してくださった安楽死の話についてもっと話してみたかった
- ・ 教育段階から分離が始まり、社会において障害者が見えなくなっているという話（「最初の分離は一生の分離」） 障害を持った人々が見えなくなっている、ということすら明確には意識していなかったことに気づき驚いた
- ・ 当事者としての経験や思いを持ったお三方から話を聞き、その経験に思いを馳せることができたのが良かった
- ・ 自分の障害をどう受容していったのかについてももう少し詳しく知りたかった

見学・体験について、

- ・ 普段の生活の様子を見ることで、具体的なイメージを持つことができた 皆さんあたたかく迎え入れてくださり、ヘルパーさんはどういった作業をしているか、それぞれの作業の意味などを教えてくださり、とても勉強になった
- ・ あっという間に終わってしまった2日間だった 生活の仕方やコミュニケーションの仕方など、自分が「当たり前」だと無意識に思っていたことがたくさん覆った
- ・ 自分にできることが少なく、ヘルパーの方が介助している様子をただ見ているだけの時間が長かったように感じる

障がいのとらえ方について

- ・ 完全な健常者、完全な障害者などいないということ 二分する概念に意味などないと感じた
- ・ 人権が確保されているかという点に着目する障害の人権モデル

グループワークの感想

- ・ 言葉を流暢に紡ぐのは難しかったが、本当に学びのある時間だった 普段誰とも話さないような内容で、ここまで頭を回転させて考えたことがなかったため、みなさんの意見を聞きながら、自分の考えたことを言語化するのに必死だった 誰もが違いを持ってこの社会で生きているのに、自分が出会ってきた大多数の人と違う人を区分して分離する、そんな社会のあり方に強い違和感を抱いた

- ・ グループワークは色んな方が様々に問いを提示してくださり、難しくも楽しいものだった持ち帰って地道に考えていきたいと思う
- ・ 人数が少なかったので、ディスカッションがしやすかった

課題

- ・ 質疑応答や、それを踏まえてのディスカッションの時間がもう少し欲しかったです
- ・ 安楽死の内容について話し合う時間がほしかった
- ・ 取材の方のカメラがあり、発言を記録されていたので、個人的な経験などを交えて話したり質問したりすることが難しく感じた とても貴重な取り組みなので、取材が入ることは大歓迎だし、広めていってほしいと思うが、ずっと撮影されていて緊張を感じた

まとめ

学生の感想（講義・実習）

- 障害に対する理解が深まった
障がい「特別なこと」と捉えるのではなく、一つの個性であると認識できたという意見が多かった。当事者の生活を実際に知ること、学びが実感を持った現場での体験を通じて、サポートのあり方や本人の希望を丁寧に聞くことの重要性を学んだ。
- 学習意欲や視野が広がった
今まであまり関心のなかった在宅看護や地域医療にも興味を持つようになったという声があった。グループワークやディスカッションで多様な意見を共有できた。他の学生の考え方を聞き、自分の意見に深みが出たと感じた学生が多かった。

実習を受け入れた当事者の感想

- 学生のまなざしや姿勢が真剣でよかった
実習中、学生が積極的にコミュニケーションを取り、理解しようとする姿勢が伝わってきた。
- 短期間でも学生の成長が感じられた
実習の初日と最終日には、学生の態度や質問の内容が変化し、理解が深まっていることを実感した。
- 学びの機会を提供することが自身にも良い刺激になった
自らの経験を伝えることで、改めて自分自身の生活や支援を見つめ直す機会となったという声もあった。

以上より、参加した学生や、実習を受け入れた当事者のアンケート結果からは本カリキュラムが、学生が学ぶ一方的な内容ではなく、双方向に効果のある内容であることを示していた。

VI. 活動報告 | 各種発表

- ・参加した学生によるイベントでのポスター発表

日付 ：2024 年 6 月 22 日

場所 ：秋葉原 UDX ギャラリー

対象 ：当事者、介助者、家族、医療福祉職など多数

内容要旨：カリキュラム化プロジェクトに参加した学生の感想及び考察

詳細内容：成果物として CANPAN へ登録した

- ・日本難病医療ネットワーク学会学術集会ポスター発表

日付 ：2024 年 10 月 25 日

場所 ：弘前文化センター

対象 ：当事者、介助者、家族、医療福祉職など多数

内容要旨：「地域生活の視点で学ぶ重度身体障害者の暮らしカリキュラムプロジェクト第2報ー医学部必修科目での実施からみえた成果と課題ー」「“地域生活の視点で学ぶ重度障害者の暮らし”カリキュラム化プロジェクト-プロジェクト実施5年で得た成果と課題-」

詳細内容：成果物として CANPAN へ登録した

- ・日本看護科学学会学術集会口頭発表

日付 ：2024 年 12 月 8 日

場所 ：熊本城ホール

対象 ：看護職、大学教員など多数

内容要旨：「デルファイ法による看護学士課程における障害者に対する肯定的態度形成を促す教育プログラムの作成」

詳細内容：プロジェクト開催における質の向上を目的とした調査研究を行った。

VII. まとめ

2024 年度は、「新講師の育成と新規地域でのカリキュラム実施」「カリキュラム運営事務局の新設に向けた事前準備」を重点目標として、日本財団助成事業を推進した。

カリキュラムの実施は全国 8 校になり、うち新たな開催校として山口県立大学、東京大学が挙げられる。また、愛知や愛媛の大学など複数の新規地域においてカリキュラム導入に向けた説明会を行い、開催地域の拡大に取り組んだ。さらに、カリキュラムを実施した各地域では、自立生活センター（CIL）や大学と連携し、その地域の実情やニーズに即したプログラムを検討したことで運営事務局の新設に向けた体制が整いつつある。

また、開催地域拡大に合わせて継続的な人材育成を図るため、新講師の発掘と育成に注力した。既存講師に加え、地域の支援者や専門職を新たに講師として養成し、講義や実習に登壇する機会を設けることで、講師陣の層を厚くし、教育内容の質の継続・向上を目指した。講師練習会や事前打ち合わせを重ねることで、各講師の専門性と実践経験を活かした内容の充実が図られた。これらの取り組みにより、地域で暮らす障がい当事者を支える医療職・介助者の育成を、より広域かつ持続的に実施するための基盤が整備された。今後もしばらく、新規地域への展開と講師育成を推進し、地域包括ケアを担う人材の育成を一層強化していく所存である。